

香港のゴミ処理事情について

香港駐在員事務所
秘書 Hau Siu Yun, June

日本の方が聞くと驚くかも知れませんが、香港では未だに多くの家庭やレストランでゴミを分別することなく捨てています。例えば家庭では、ごみ捨ての際に「ペットボトル」「空き瓶」「空き缶」「生ごみ」など全てを一緒にゴミ袋に入れて、マンション各階の専用スペースに置くのが一般的であり、「燃えるもの」と「燃えないもの」さえ分別しません。

ゴミ捨てが容易なせいか、ゴミの量も多くなっているようです。香港環境保護局によると、2011年における香港の一般廃棄物¹総排出量は年間約304万トン。1人あたりに換算すると年間約430kgに及び、日本の1人あたり排出量356kg（2010年／環境省）を大きく上回っています。

香港では、1997年に市民や環境団体の反対を受け焼却施設が閉鎖されて以降、ほとんどのゴミが埋め立て処分されていますが、現在使用されている3つの主要処分場は2014～2018年には満杯になると言われており、今後どのようにゴミを処理するかは大きな社会問題となっています。

このような状況の中、香港政府は2004年から一部のマンションに分別ボックス（各階用の古紙、アルミ缶、ペットボトル）を試験的に設置するなど、リサイクル強化に向けた取組みを徐々にですが始めています。2005年からは分別ボックス設置費用の半額を負担するなどの補助金政策を実施するとともに設置対象マンションを拡大しており、これらの施策はゴミ排出量の減少にも寄与しているようです。

また2009年からスーパーマーケットなど小売店舗にレジ袋の有料化が義務付けられており（1袋0.5HK\$ <1HK\$=10円、約5円>）、一人あたり消費量では世界最高水準と言われていたレジ袋の消費（約3,300万袋/日）が、1年後には90%以上も削減されたとの報告がなされています。

一方、政府は廃棄物の少ないクリーンな焼却施設の再設置も検討しています。2011年には曾蔭権(Donald Tsang)前行政長官が東京と横浜のゴミ処理施設3ヶ所を視察。日本式最新焼却処理システム導入の可能性にも言及しています。

環境問題の解決には政府の対策だけでは不十分であり、香港市民1人1人が当事者意識を持って取り組むことが必要です。最近では小学校や中学・高校で環境問題に関する授業を取り入れたり、地域単位でリサイクルコンテストを催したりと市民の意識も変化してきています。

香港は2008年には1人当たりGDPが30,000米ドルを超え、経済的にも豊かになりました。しかし、急速に経済成長してきたがゆえに資源のリサイクルや環境問題への意識が希薄であり、日本やシンガポール等アジアの環境先進国から学ぶことはまだまだ多いようです。



（徐々に増えてきたマンション内分別ボックス）

¹ 生活系ごみと事業系ごみの合計。いわゆる産業廃棄物は除く。